

◎選択肢のある設問は、最も適当なものを選んでその番号または記号を記すこと。
◎字数指定のある設問は、句読点や記号も一字とする。

【一】次の文章を読み、後の問に答えよ。

▲二十世紀後期にさかんになったサイバーパンク——サイバネティクスと、社会問題を告発するロック音楽のパンクとを合成した語で、近未来の社会現象をとりあげるSF——をアニメーション・フィルムで展開する作家に押井守おしいまもるがいる。彼は、「生きている実感をもてない」と自ら口にする今日の日本の若い人びとに向けて、生命感の希薄な世界を提示する精巧な技術を開発し、人間がロボットないしはサイボーグとともに活躍し、その相似や交錯を印象づける作品や、希薄な日常の実感のなさといのちをかけるゲームの場とを交錯させたりする作品で、国際的に若い世代の支持を得ている。

A のほうに、よりリアリティを感じるには、どういうことなのか。たとえば、かつて庄野潤三しょうのじゅんざうの短編小説「プールサイド小景」(一九五四年)は、手に入れたはずの日常の安定が、実は夫婦がとりつくろっているだけの、見せかけのものでしかないこと、安定した家庭や職場の日常の底に、ハメツアに向かう危機が口をあけていることを書いていた。戦中、戦後の混乱期を懸命に生きてきた人びとが、ようやく獲得した相対的な安定感のなかに、ふと、空虚を覚えることがあったことを象徴的に示したものと違ってよい。そして、吉行淳之介は「鳥獣虫魚」(一九五九年)で、若い勤め人の見なれたはずの日常生活が脱色し、人びとも車や電車なども、鳥や獣や虫や魚に変形してしまう世界を書いていた。これは、高度成長経済期にさしかかったときの作品だった。これらは混乱期を抜け出て、回復した日常性にためらいといぶかしさを覚える感受性を示していた。▼

これに比べて、今日、生きている実感をもてないという感想は、過労死がヒンパンイにおきた仕事人間の季節が終わりを告げ、人びとに打ち込むものがなくなつた季節の到来を告げている、というわけではない。リタイアしたのちの生活を樂しむ人びとの姿もたくさん目にする。それは若い世代だけが口にしてしていることだ。彼らが、かつて子供の時期に味わつた生きている実感が成長するにしたがつて失われたというのともちがう。かつての同世代の若者たちが生き生きとしていたことを示す何かを参照して、そのように語られるのかもしれないが、そもそも生きている実感をもつたことのない者が、それをもてないと口にするのは、おかしな話ではないか。

そして、それには、大人になりたくない、実社会に出たくないという拒否の感情がともなつていわれている。モラトリアム期間をさらに要求しているようなものだ。モラトリアムで行われるクレンウも拒否するなら「ひきこもり」になる。そうでなければ、実感探しの旅に出るか、拒否感を抱いたまま、実社会に押し出されることになる。不適合が起きて当然だろう。

いのちの実感の本身は、時代や地域、個々人によって相当に異なるものだったはずだ。そして、誰だって、社会のある要素にケンオ感エを抱いたり、拒否したりしながら、それらを改善しようと努力したり、無視してやり過ぎしたりしてきたはずだ。だから、今日の若い人びとに生きている実感もてるか、もてないかという二分法で自分をはからせるようにしむけているのは、実は、大人たちなのではないか。

そのきっかけは、幼年時からビデオやコンピュータ・ゲームなどヴァーチャルな世界にのめりこみ、自然を体験することが少なくなつていふことを心配するあまりだったかもしれない。しかし、その二分法は、結果として、B 味わつたことのない実社会を、生きる実感を味わうことに対して、恐れややりきれなさを抱かせることになつていふだろう。年齢層が分厚くのしかかり、希望の見えない社会に進んで飛び込む気持ちももてないということだ。覇気も向上心もない魂の抜けがらのような日本の若者の集団には、社会上昇や民族的成長という目標や意欲をもつ中国や韓国からの留学生たちがあきれているほどだ。病理は、社会のほうにある以上、C 実感の回復を目指しても、彼らがそれを取り戻す日がやすやすと来るとは思えない。

彼らが生きがいを見いだす方向を変えるしか、手はないだろう。それは社会のあり方を変えることにつながる。多様な価値観が飛びかう時代に、もちろん、一律な処方箋せんはありえない。自分探しや多様性が大事とウツタオえることより、多様な生き方があること、しかし、どれも、その実現には困難をとまなうこと、そのひとつひとつをのりこえる道を的確にアドヴァイスするしかないだろう。大人たちがその能力を身につけることこそ問われていると思う。遺伝子が決めるようなものではなく、その先に築かれるものこそが自分なのであり、あらかじめ、いまの自分の感性にフィットしたものなどを探しても、往ウ往ウをくりかえすだけだ。

(鈴木貞美『日本人の生命観』)

注1 サイバネティクス：人工頭脳学。生物と機械における制御と通信の問題を研究する学問。

二〇一一年度 青山学院高等部 入学試験問題 国語 その二

問一 ― ①は何と比べて述べたものか。本文中から十字以内で抜き出せ。

問二 ― ②の内容を本文中から十五字以上二十字以内で抜き出せ。

問三 ― ③を比喩的に表している語を、これより前の本文中から漢字二字で抜き出せ。

問四 ― ④と同じ用法の「あまり」を含むものはどれか。

- 1 運動はあまり好きではない。
- 2 鞆かばんがあまりに軽いので驚いた。
- 3 興奮のあまり泣き出した。
- 4 あまりの恐怖に足がすくんだ。

問五 ― ⑤は何を指すか。

- 1 斬新ざんしんな治療法
- 2 即席の予防策
- 3 厳格な対処法
- 4 万能の解決策

問六 ― ⑥の空欄にそれぞれ漢字一字を入れて、四字熟語を完成させよ。

問七 ― A に入ることを本文中の の範囲から十字以内で抜き出せ。

問八 B C に入る語はそれぞれどれか。

- 1 さらに
- 2 いくら
- 3 もっと
- 4 すでに
- 5 きっと
- 6 いまだ

問九 本文の内容として正しいものを二つ選べ。

- 1 現代の若者が生きている実感をもてないのは、現実感のあるゲームが世にあふれているためである。
- 2 現在の自分の感性に合うものを探すことで、若者たちは生きている実感をもつことができる。
- 3 生きている実感の欠如した若者たちに対して、大人たちはより積極的な関わりをもつ必要がある。
- 4 昔の若者は生き生きとした世界の中にいたため、生きている実感をもてない者などいなかった。
- 5 若者たちは生きている実感をもてずに、社会に出るまでの猶予期間を引きのばそうとしている。
- 6 日本の若者が生きている実感を取り戻すには、海外からの留学生の姿勢を見習わなければならない。
- 7 大人たちは、生きている実感をもてないまま現状に満足している若者たちに同情している。

問十 ― アーオのカタカナを漢字に直せ。

【二】 次の文章を読み、後の問に答えよ。

フェアバンクスは新緑の季節も終わり、初夏が近づいています。

夕暮れの頃、枯れ枝を集め、家の前で焚き火をしていると、アカリスの声があちこちから聞こえてきます。残雪が消えた森のカーペットにはコロコロとしたムースの冬の糞ふんが落ちていて、一体あんな大きな生き物がいつ家の近くを通り過ぎていったのだろうと思います。

頬ほおを撫なでてゆく風の感触も甘く、季節が変わってゆくようとしていることがわかります。アラスカに暮らし始めて十五年がたちましたが、ぼくはページをめくるようにはつきりと変化してゆくこの土地の季節感が好きです。人間の気持ちとは可笑おかしいものですね。どうしようもなく些細ささいな日常に左右されている一方で、風の感触や初夏の気配で、こんなにも豊かになれるのですから。人の心は、深くて、そして不思議なほど浅いのだと思います。きっと、その浅さで、人は生きてゆけるのでしょう。

ケツアコンコンをして、新しい生活も始まり、少しずつ何かが変わろうとしています。先日、昔の荷物を整理していて、懐かしいものを見つけました。一九七八年の日記帳です。つまりアラスカに移り住んだ最初の年の日記帳なのです。

もうすっかり古ぼけていましたが、ふと一ページ目を開いてみると、まるで遠い昔の自分に出会ったように懐

かしさがこみ上げてきました。それは羽田を發ち、アラスカへ向かう機内で書いたものでした。思わず苦笑してしまつたのは、まるで決意表明のような文章なのです。それほど気持ちが高ぶっていたのでしよう。気恥ずかしくなるような内容なのに、そこには、アラスカという未知の世界へ入ってゆこうとする真摯な自分の姿がありました。荷物の整理を中断し、しばらくその古い日記帳を読みふけてしまつたのです。《A》

あの頃、ぼくの頭の中は確かにアラスカのことについていっぱいでした。まるで熱病に浮かされたかのようにアラスカへ行くことしか考えていませんでした。ジシヤクも見つからなければ、地図も無いのに、とにかく船出をしなければならなかつたのです。《B》

フェアバンクスの空港に着き、ぼくはそのままアラスカ大学へ向かいました。どうしてもこの大学の野生動物学部に入らなければならなかつたのです。しかし、入学管理事務所で必要な書類を提出すると、外国人がアラスカ大学へ入学するための英語の点数が三十点ほど足りません。つまり今年はまだ無理だと言うのです。けれども、ぼくはもう日本へ帰るわけにはいきません。《C》

ぼくはそこから野生動物学部の学部長に会いにゆきました。何度か手紙を出していたので、アラスカにやってくることは知っていたのです。英語さえともに話せなかつたのに、ぼくは必死で自分の気持ちを伝えようとしたのでした。《D》

これからじっくり極北の自然と取り組みたいこと。そのためにはどうしてもこの大学の野生動物学部に入らなければならぬこと、わずか三十点の違いで一年を()にふることは出来ないこと……そして、どれだけ長い間アラスカに来ることを夢見ていたか。《E》

今から考えれば、初めて会つた学部長に、何とリフジンな理由を並べたのだろうと思います。ぼくの都合など大学とは何の関係もないことですからね。しかし、あの時のぼくの切羽つまつた気持ちとしては、たかが三十点のことです。入学させない大学の決まりもリフジンな気がしたのです。

学部長はじつとぼくの話聞いてくれました。そして微笑をもつて言つたのです。

「わかつた。私の責任で君をこの大学に入れよう。これから電話をするから、入学管理事務所へ行きなさい」
ぼくはもう天にも昇るような気持ちでした。ゆつくり歩くことが出来ず、大学のキャンパスを走つてゆきました。高台にあるこのキャンパスからは、はるか彼方に氷河を抱いたアラスカ山脈の連なりがくっきりと見えます。その山並が自分を呼んでいるような気がしてなりません。ちょうど今のように柔らかな初夏の風が吹き始めた頃でした。

さまざまな夢を抱いてアラスカにやつて来たぼくは、まるでそのひとつひとつを消化していくかのように旅を始めました。アラスカという白地図の上に、自分自身の地図を描いてゆかなければならなかつたのです。

アラスカ北極圏を横切るブルックス山脈の、未踏の山や谷を歩きました。グレイシャーベイをカヤックで旅しながら、氷河のきしむ太古の音に耳をすませました。エスキモーの人々とウミアック（アザラシの皮で作つたボート）を漕ぎ、北極海にセミクジラを追いしました。アバスカン・インディアン（注）の村で、魔術的なポトラッチを見ました。カリブーの季節移動に魅かれ、その壮大な旅を続けました。数えきれないほどのオーロラを見上げ、オオカミにも出合いました。そして何よりも、さまざまな人の暮らしを知りました……そしていつの間にか十五年の歳月が過ぎていたのです。

自分自身のアラスカの地図も少しずつ見えてきました。壮大な自然を内包するアラスカも、今、大きな過渡期を迎えています。きっと、人間がそんなのかもしれないね。何も止まるものはないように、人の暮らしもアラスカの自然も変わつてゆくでしょう。人間と自然との関わりとは、答えのない永遠のテーマなのだと思います。しかし、誰もがそれぞれのより良い暮らしを捜して生きています。便利で、快適な生活を離れ、原野に生きてゆく人々。さまざまな問題を抱えながら、急速に近代化してゆくエスキモー、インディアン……その中で人々がどんな選択をしてゆくのか、自分の目で見てゆきたいです。これまで出会つた人々がどんな地図を描いて生きてゆくのか、やはり知りたいと思います。それはどこかで自分とムエンではないからです。

とりとめのないことを書きつづつてしまいましたが、突然目の前に現れた古い日記帳は、何だかたまらなく懐かしい遠い自分に引き合わせてくれたのです。そしてしばらくの間ほんとうにぼんやりとしましたのでした。十五年という月日は、長いようで、実に短くも感じますね。

そして、もう一度あの頃の自分に戻れないか、とも思つたのです。つまり、目の前からスーッとこれまでの地図が消え、ジシヤクも羅針盤も見つからず、とにかく船だけは出さなければというあの頃の突き動かされるような熱い想いです。そしてたどり着くべき港さえわからない新しい旅です。もしかすると、誰の人生もさまざまな意味でそういうことなのかもしれないですね。

さて、そろそろ()をおくことにします。

あと一週間もすれば、アラスカの川には怒濤のごとくサケが上つてきます。一匹のサケを両手でつかむ時、バ

二〇一一年度 青山学院高等部 入学試験問題 国語 その四

ネのようにハゲしくしなるその力に、ぼくはいつもアラスカの夏を感じます。
それでは、また。

一九九三年六月一日

(星野道夫『旅をする木』)

注1 エスキモー：イヌイットのこと。ここでは原文の表現にしたがった。

注2 インディアン：ネイティブ・アメリカンのこと。ここでは原文の表現にしたがった。「アサバスカン・

インディアン」はアサバスカ語を話すネイティブ・アメリカンの総称。

注3 ポトラッチ：客を招き、贈答品のやりとりをする慣習。

問一 — ①と同様の表現技法を用いているものはどれか。

1 黒ぶちメガネが行列に割り込んだ。

2 堰を切ったように涙があふれ出た。

3 草花たちが私に微笑みかけてきた。

4 探しものは本の山に埋もれていた。

問二 — ②はどのようなことを表現しているか。

1 吹きつける冷たい風も、この地を愛する筆者には柔らかく感じられるということ

2 厳しい気候の中にも、暖かい季節の訪れをすがすがしく感じるということ

3 季節が移りゆく中で、花や果実のさわやかな香りがただよってくるということ

4 季節の変化を前にして、過ぎしてきた長い年月の思い出に浸っているということ

問三 — ③のようにはなぜか。

1 わけもないのに心が変化するから

2 突然の出来事に心が変化するから

3 季節に合わせて心が変化するから

4 わずかなことで心が変化するから

問四 — ④はどのような「自分」か。次の□に入ることをばをこれより後の本文中から十字以上十五字以内で抜き出せ。

□だけで行動していた自分

問五 — ⑤でいう「地図」とはどのようなものと考えられるか。

1 旅の喜びや苦しみ

2 研究分野や研究課題

3 暮らしや生き方

4 与えられた役割や任務

問六 — ⑥ではどのような問いに対して答えがないのか。

1 人間はどうすれば自然を克服して快適な生活を営んでいけるのか。

2 人間はどうすれば自然に逆らわず原始的な生活に戻っていけるのか。

3 人間と自然はどうすればお互いを排除せずに共存していけるのか。

4 人間と自然はどうすれば現在の理想的な関係を維持していけるのか。

問七 — ⑦とほぼ同じ意味の語はどれか。

1 勝手な

2 散漫な

3 唐突な

4 空虚な

二〇一一年度 青山学院高等部 入学試験問題 国語 その五

問八 〃〃 a・bの()にそれぞれ漢字一字を入れて慣用句を完成させよ。

問九 次の一文は本文中の「A」〜「E」のどこに入るか。

アラスカに対する思いはすっかり熟し、すでに船を出してしまつたのです。

問十 本文の説明として最も適切なものを選び。

- 1 アラスカの季節の移り変わりに、自らの人生に訪れた転機を重ねて描いている。
- 2 読者に語りかける文体を用いて、アラスカの環境問題の現状を知らせようとしている。
- 3 アラスカでの経験を通して、未知の土地に旅することの意義を語っている。
- 4 過去と現在とを往復しながら、アラスカと日本との間で揺れ動く心境を表現している。

問十一 〃〃 ア〜オのカタカナを漢字に直せ。

【三】 次の文章を読み、後の問に答えよ。

今は昔、人のもとに宮仕へしてある生侍^{註1}ありけり。する事のなきままに、清水^{註3}へ人まねして、千日詣^{註2}を二度したりけり。その後いくばくもなくして、主のもとにありける同じやうなる侍と双六^{註4}を打ちけるが、多く負けて、渡すべき物なかりけるに、いたく責めければ、思ひわびて、「我持ちたる物なし。ただいま貯^{註5}へたる物とは、清水に二千度参りたる事のみなんある。それを渡さん」といひければ、傍らにて聞く人は、謀^{註6}るなりと、をこに思ひて笑ひけるを、この勝ちたる侍、「いとよき事なり。渡さば得ん」といひて、「いな、かくては請^{註7}け取らじ。三日して、この由を申して、おのれ渡す由の文書きて渡さばこそ請け取らめ」といひければ、「よき事なり」と契^{註8}りて、その日より精進して、三日といひける日、「さは、いざ清水へ」といひければ、この負け侍、この痴者^{註9}にあひたると、をかしく思ひて、悦^{註10}びてつれて参りにけり。いふままに文書きて、御前^{註11}にて師の僧呼びて、事の由申させて、二千度参りつる事、それがしに双六に打ち入れつと書いて取らせければ、請け取りつつ悦びて、伏^{註12}し拝みまかり出でにけり。

その後、いく程なくして、この負け侍、思ひかけぬ事にて捕らへられて人屋^{註4}にゐにけり。取りたる侍は、思ひかけぬ便りある妻まうけて、いとよく徳つきて、司^{註13}などなりて、頼もしくてぞありける。

「⑧なれど、まことの心を致して請け取りければ、仏、哀れと思しめしたりけるなめり」とぞ人はいひける。

(『宇治拾遺物語』)

注1 生侍：年が若く、未熟で位の低い侍。

注2 千日詣：千日の間、同じ社寺に続けてお参りすること。

注3 双六：盤の上で二つのさいころを振り、早く敵の陣地へ自分の駒を入れることなどを争う昔の遊び。

注4 人屋：牢屋。

問一 〃〃 ①の意味はどれか。

- 1 ご利益を実感できなくて
- 2 お金がなくなってしまう
- 3 日数が経たないうちに
- 4 希望を持ってないままに

二〇一一年度 青山学院高等部 入学試験問題 国語 その六

問二 — ②の意味はどれか。

- 1 謝って
- 2 困って
- 3 迷って
- 4 憤いきどおって

問三 — ③はどのようなことに対して思ったことか。

- 1 持っているものが何もないと言ったこと
- 2 千日詣を二度したと言ったこと
- 3 三日間は精進すると言ったこと
- 4 千日詣のご利益を譲ると言ったこと

問四 — ④の「文」の具体的な内容をこれより後の本文中から抜き出し、初めと終わりの三字を記せ。

問五 — ⑤の後に続く言葉を五字以内で記せ。ただし、現代語でよい。

問六 — ⑥はなぜか。

- 1 双六で勝ったから
- 2 師の僧に会えるから
- 3 二千度詣ができるから
- 4 金品を渡さずにすんだから

問七 — ⑦は何の前か。これより後の本文中から漢字一字で抜き出せ。

問八 ⑧に入るのはどれか。

- 1 目に見えぬもの
- 2 取るに足らぬもの
- 3 人に言えぬもの
- 4 聞くに耐えぬもの

問九 || A・Bの主語はそれぞれ誰か。

- 1 主 勝ちたる侍
- 2 負け侍
- 3 傍らにて聞く人
- 4 師の僧
- 5 師の僧